

2022 年度事業概要

国内の新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は 8 月に約 617 万人と過去最大の広がりを見せたものの、3 月には約 25 万人まで減少しており、ようやくピークアウトの兆しが見えてきた。政府は次年度 5 月に分類を季節性インフルエンザと同じ 5 類に引き下げることが決定しており、今後は行動制限の廃止により経済の活性化が期待される。

かかる状況下、競輪界においては昨年度に続きコロナ禍であっても安定的な事業継続に資するため、新型コロナウイルス感染症対策本部を中心として感染拡大防止や検査体制の整備等の対策が実施されてきたが、本会も競輪開催の継続に向け感染症の基本的な防止策の徹底に取り組んできた。一方、売上浮揚については「中期基本方針」に基づき過去の施策の検証を踏まえた現状分析を行い、新たなお客様の獲得や休眠状態のお客様の掘り起こしのため、魅力的な商品ラインアップの提供や売上構造の変化を踏まえインターネット投票の拡大など、お客様の満足度向上や売上向上に繋げる施策を関係団体一丸となって推進してきた。

コロナ禍の影響を受け本場・場間場外等の利用者数は厳しい状況が続いているものの、電話・インターネット投票による売上の拡大により、本年度の車券総売上高は 1 兆 907 億 7929 万 200 円で対前年度比 113.1%と業界目標であった 1 兆円超えを達成した。今後も競輪の持続的発展に向けて、新たに 2025 年度までの売上目標額を 1.25 兆円に設定し、これまで以上にお客様の購買動向やニーズを的確に捉えた企画を打ち出し、商品展開していくことで売上増加に繋げていくことが競輪最高会議で決定した。このような背景のもと行われた 2023 年度選手賞金は、本会の主張をつぶさに訴え全輪協と交渉を重ねてきた結果、「普通賞金、出場手当」の増額及び「モーニング競輪冬期早朝特別手当」を新設することで双方合意に至った。

業務関係については、感染対策として参加選手数を減じる措置が講じられているが、月最低 2 回、最高 3 回の出場回数と適正な出場条件が確保されるよう関係団体に強く要請した。また、直前欠場及び中途欠場問題については、興味ある番組の提供及び円滑な開催運営に支障を来しかねないことから、契約の意義について啓もうを図った。選手指導は、諸規則の順守を基本に競技秩序の維持、落車及び失格事故の防止を目的に種々の対策を講じ、その実行が図られるよう努めた。選手モラルにおいては、SNS による情報配信に際し第三者から苦情が寄せられるなど不適切な投稿が散見されたことから、会員に対し改めて注意喚起を促した。競技関係については、2024 年に開催されるパリオリンピックの出場枠獲得に向けた大会が 2 月から始まり、ネイションズカップ第 1 戦及び第 2 戦において競輪選手は幸先よく多くのメダルを獲得した。本会は、世界の強豪と戦う選手に対し積極的に支援・協力した。組織整備については、コロナ禍における事業継続性の観点からグループウェアのクラウド化を進めるとともに、業務効率の向上とペーパーレス化推進のためタブレット導入等 IT インフラの整備を行った。

これら諸事業については、諸会議において逐次説明し理解を求めるとともに、機関紙「プロサイクリスト」及び本支部間の PC ネットワークを通じ、会員への周知啓もうに努めた。